

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

|    |    |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 分野 | 演劇 | 種目 | 演劇 |
|----|----|----|----|

応募区分(応募する区分を選択してください。)

|      |     |
|------|-----|
| 応募区分 | A区分 |
|------|-----|

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

|         |   |        |  |
|---------|---|--------|--|
| 複数応募の有無 | 無 | 応募総企画数 |  |
|---------|---|--------|--|

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

|                    |  |
|--------------------|--|
| 複数の企画が採択された場合の実施体制 |  |
|--------------------|--|

文化芸術団体の概要

|                         |  |          |  |          |
|-------------------------|--|----------|--|----------|
| ふりがな<br>制作団体名           | ユウゲンガイシャゲキダンイチキュウハチマル  |          | 団体ウェブサイトURL  |          |
|                         | 有限会社劇団1980   |          | <a href="http://gekidan1980.com/">http://gekidan1980.com/</a>            |          |
| 代表者職・氏名                 | 代表取締役・柴田義之   |          |  |          |
| 制作団体所在地                 | 〒  | 156-0046 | 最寄り駅(バス停)  | 京王線下高井戸駅 |
|                         | 東京都世田谷区松原3-4-5泉ハイツ102  |          |  |          |
| 電話番号                    | 03-3321-2835   |          |  |          |
| ふりがな<br>公演団体名           | ユウゲンガイシャゲキダンイチキュウハチマル  |          | 団体ウェブサイトURL  |          |
|                         | 有限会社劇団1980   |          | <a href="http://gekidan1980.com/">http://gekidan1980.com/</a>            |          |
| 代表者職・氏名                 | 代表取締役・柴田義之   |          |  |          |
| 公演団体所在地                 | 〒  | 制作団体と同じ  | 最寄り駅(バス停)  | 制作団体と同じ  |
|                         | 制作団体と同じ  |          |  |          |
| 制作団体 設立年月               | 1980年4月  |          |  |          |
| 制作団体組織                  | 役職員  |          | 団体構成員及び加入条件等   |          |
|                         | 代表取締役 柴田義之<br>取締役 山本隆生   |          | 主な構成員: 柴田義之(代表・俳優)、山本隆世(俳優・演出家)、藤川一歩(俳優)、神原弘之(俳優・演出家)、木之村達也(俳優)、上野裕子(俳優) |          |
| 事務体制<br>事務(制作)専任担当の有無   | 他の業務と兼任の担当者を置く   |          | 本事業担当者名  | 柴田義之     |
| 経理処理等の<br>監査担当の有無       | 有  |          | 経理担当者  | 上野裕子     |
| 本応募にかかる連絡先<br>(メールアドレス) | <a href="mailto:info@gekidan1980.com">info@gekidan1980.com</a> |          |  |          |

|                                    |   |  |  |  |
|------------------------------------|---|--|--|--|
| <p><b>制作団体沿革・<br/>主な受賞歴</b></p>    | <p>1980年4月、横浜放送映画専門学院(現;日本映画大学)演劇科卒業生が、劇作家・演出家の藤田傳の元に集まり発足。藤田傳のこだわる「日本」と「日本人」を探る演劇作品を創り続け、『老人三部作』『ツイテナイ日本人・三部作』『日本土民考・三部作』等の作品群を発表。93年には藤田の盟友である関矢幸雄を招き、『素劇 あゝ東京行進曲』を発表。続いて2016年に『素劇 檜山節考』を製作。演劇鑑賞会を通じ、全国各地で公演を行っている。その他、金守珍、大谷美智浩、小林七緒、瀬戸口郁、高橋正徳を招聘し舞台創りを行っている。</p> <p>2022年、モルドバ共和国国立劇場ウジェーヌ・イヨネスコと文化協定を結び交流を深めている。</p> <p>2021年10月、ブラジルからの日系人デカセギをテーマにした、文学座の瀬戸口郁作・高橋正徳演出『いちばん小さな町』を俳優座劇場で上演、同年、藤田傳作・山本隆世演出『豊後訃り節』との2作品の成果として第23回テアトロ演劇賞特別賞受賞。</p> <p>2023年、劇団代表の柴田義之が第57回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。</p> <p>ヨーロッパ三大演劇祭のひとつである、ルーマニアのシビウ国際演劇祭には1995年に日本の劇団として最初に参加し、その後ヨーロッパ公演を10回、韓国公演を2回、ブラジル公演を2回行い、日本の劇団としては最も意欲的・先駆的に芸術交流を図っている。</p> <p>平成6年 第29回 紀伊國屋演劇賞 個人賞(藤田傳)</p> <p>平成22年 2010ガラスターインターナショナルワンマンショーフェスティバル 最優秀男優賞(柴田義之)</p> <p>平成28年 岡山市民劇場賞 作品賞・女優賞(上野裕子)／広島市民劇場賞(団体)</p> <p>令和3年 岡山市民劇場賞 作品賞 / 第23回テアトロ演劇賞 特別賞(団体)</p> <p>令和5年 第57回 紀伊國屋演劇賞 個人賞(柴田義之)</p> |  |  |  |
| <p><b>学校等における<br/>公演実績</b></p>     | <p>平成22年6月 長野県中信地区高等学校合同芸術鑑賞事業『落語芝居』</p> <p>6月10日 塩尻志学館高校・東京都市大学塩尻高校(塩尻レザンホール)</p> <p>11日 明科高校・大町北高校・白馬高校(大町市文化会館)</p> <p>16日 松本筑摩高校・南安雲農業高校・梓川高校・エクセラン高校(まつもと市民芸術館)</p> <p>17日 松本工業高校・豊科高校(まつもと市民芸術館)</p> <p>18日 松本第一高校・松本美須々ヶ丘高校・松本盲学校(まつもと市民芸術館)</p> <p>平成24年6月 長野県中信地区高等学校合同芸術鑑賞事業 『素劇あゝ東京行進曲』</p> <p>6月13日 東京都市大学塩尻高校(塩尻レザンホール)</p> <p>14日 明科高校(大町市文化会館)</p> <p>20日 松本美須々ヶ丘高校(まつもと市民芸術館)</p> <p>21日 松本筑摩高校・松本盲学校(まつもと市民芸術館)</p> <p>22日 木曾青峰高校・蘇南高校(木曾文化公園文化ホール)</p> <p>27日 上田高校・上田染谷丘高校(上田市民会館)</p> <p>平成28年5月 長野県望月高等学校芸術鑑賞会 『落語芝居』</p> <p>5月31日 佐久市公民館 望月地区会館 駒の里ふれあいセンター大ホール</p>  |  |  |  |
| <p><b>特別支援学校等における<br/>公演実績</b></p> | <p>無いです。</p>  |  |  |  |
| <p><b>参考資料の有無</b></p>              | <p>申請する演目のWEB公開資料</p>   | <p>有</p>   |  |  |
|                                    | <p>※公開資料有の場合URL</p>   | <p><a href="https://youtu.be/fbOKXxw6GWM">https://youtu.be/fbOKXxw6GWM</a></p> |  |  |
|                                    | <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>  | <p>ID:</p>   |  |  |
|                                    |   | <p>PW:</p>   |  |  |

|    |    |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 有限会社劇団1980 】

|                |  |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|----------------|--|--------------|----------|----------|---|----------------------|--|----------------------|--|------------------------------|--|----------------------|--|
| 対象             | 小学生(低学年)   |              | 小学生(中学年) |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | 小学生(高学年)   | ○            | 中学生      | ○        |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| 企画名            | 落語芝居「猫の皿」「宿屋の仇討」「一人酒盛」   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| 企画のねらい         | 日本語の宝庫とも言える「落語」の世界。この落語を題材にとり、それぞれの登場人物を俳優が演じながら平成16年から落語の作品を芝居化し各地方で公演を行ってきた。落語は1人語りの芸能であるが、その物語性は高く、世情や時代をも反映させている芸術である。それを人物を立体的に登場して見せることにより、話の内容や面白みが損なわれないように、時代背景や生活感覚を大事に脚本を反映させて芝居として見せ、観る方に想像力の再確認、時代を経ても変わらない人の姿、営みに思いを馳せ、若い世代に伝統芸能を身近に感じてもらいたい。<br>児童や生徒に、音楽ユニット「上々颱風」やライブハウスで演奏活動を行っている後藤勝氏のワークショップを受け、本番には一緒に効果音の演奏を行い作品を共同で創り上げる楽しさを体験する。   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| 作品(コンテンツ) 選択理由 | 江戸時代から明治を背景にした今回の三作品は、英雄も時代的な有名人も出て来ないが、時代を経ても変わらない。人々の営みを重点を置き、どこにでもいる庶民の中にかかるふっと笑ってしまうような作品を選んだ。   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| 児童・生徒の参加可能人数   | メインプログラム   | 500人         |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | ワークショップ  | 登壇し実技する生徒 5名 |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| プログラム全体の流れ     | 【プログラムの構成】   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | <table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>ワークショップ1回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ2回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ2回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ1回</td> </tr> </table>  |              |          |          | ○ | ワークショップ1回 → メインプログラム |  | ワークショップ2回 → メインプログラム |  | ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ |  | メインプログラム → ワークショップ2回 |  |
| ○              | ワークショップ1回 → メインプログラム   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | ワークショップ2回 → メインプログラム   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | メインプログラム → ワークショップ2回   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | メインプログラム → ワークショップ1回   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| プログラム全体の流れ     | 【全体の流れ】  |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | <p>落語芝居「一人酒盛」「猫の皿」「宿屋の仇討」</p> <p>【プログラム構成】</p> <p>午前中に音楽室で後藤勝氏の指導で、作品に合わせた効果音をつくりのワークショップを行う。(90分)</p> <p>午後からのメインプログラムは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶</li> <li>「一人酒盛り」の鑑賞ガイド</li> <li>落語芝居「一人酒盛り」上演</li> <li>「猫の皿」鑑賞ガイド</li> <li>落語芝居「猫の皿」上演</li> <li>(休憩)</li> <li>「宿屋の仇討」鑑賞ガイド</li> <li>落語芝居「宿屋の仇討」上演</li> <li>感想・質問コーナー</li> </ol> <p>(公演時間90分)</p> <p>【児童や生徒の参加又は体験の形態】</p> <p>事前に、上演演目落語を視聴し、落語芝居との違いを体験し、それぞれの表現の価値を体験する。</p> |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
|                | WS1回目 90分  | メインWS 90分    | WS2回目    | 合計 180 分 |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |
| 指導体制           | <p>作・演出を担当する大谷美智浩氏による作品の解説、落語の来歴、落語を立体的に見せる事の意義や目的をレクチャーする。</p> <p>音楽家後藤勝による打楽器を使った効果音のワークショップ。舞台上で後藤勝と実演参加。</p> <p>作: 大谷美智弘、演出: 大谷美智弘、音楽: 後藤勝</p> <p>美術デザイン: 佐々波雅子、照明プラン: 益子頭一、音響プラン: 齋藤美佐男</p> <p>出演者: 神原弘之、山本隆世、木之村達也、大田怜治、上野裕子、光木麻美</p> <p>楽器演奏: 後藤勝</p> <p>鑑賞ガイド: 大谷美智弘</p>   |              |          |          |   |                      |  |                      |  |                              |  |                      |  |

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、芸術監督等)の個人略歴<br/>※3名程度<br/>※3行程度/名</p>  | <p>脚本・演出:大谷美智浩/1963年、福岡出身。横浜映画学校卒。 塚晴彦氏主催の演劇倶楽部「座」に所属、その歌唱力・演技力で『レミゼラブル』『エリザベート』にも出演。近年は後進の育成に関わり日本映画学校の講師も務める。<br/>代表・企画:柴田義之/俳優、福岡出身。劇団1980主催、海外での活躍も多く。2010年国際一人芝居フェスティバル最優秀男優賞受賞。2023年第57回紀伊国屋演劇賞個人賞を受賞。<br/>音楽:後藤勝/古澤良治郎・田中倫明に師事。1990年EPICソニーから「上々颱風」デビュー。ASEANツアー、フランスツアー、山本寛斎スーパーショーインディア参加。ジブリ平成ぼんぼこ音楽担当(作曲を含む)、その他映画音楽を担当。2020年より劇団1980「素劇 榎山節考」に参加。</p> |  |   |
| <p>従事予定者数(1回あたり)<br/>※ドライバー等訪問する業者人数含む</p>  | <p>出演者 8名<br/>スタッフ 4名<br/>合計 12名</p>  | <p>運搬</p>  | <p>2トンロングトラック(アルミ)<br/>積載量: 2 t<br/>車長: 6,5 m<br/>台数: 1 台</p> |
| <p>※採択決定後、図実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等</p>  | <p>【ワークショップ】<br/>1回目 音楽室のような部屋(楽器演奏がある為)<br/>マイク<br/>参加者の為の椅子。</p>  | <p>【メインプログラム】<br/>定式幕(なければ持参可能)<br/>舞台かさ上げ用平台<br/>児童や生徒の観劇用の椅子。</p>  |   |
| <p>※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の作成をお願いします<br/>当日の所要時間(タイムスケジュール)の目安</p>   | <p>【ワークショップ】<br/>公演当日、午前中に90分のワークショップ。</p>  | <p>【メインプログラム】<br/>9時搬入。<br/>12時まで仕込み・場当り。<br/>13時開場。<br/>13時30分開演。<br/>15時終演。<br/>児童や生徒の退場後バラシ。<br/>17時撤去。</p> |   |
| <p>本公演実施可能日数目安<br/>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>   | <p>7月</p>   | <p>8月</p>  | <p>9月</p>   |
| <p></p>   | <p>14日</p>  | <p>0日</p>  | <p>22日</p>  |
| <p>10月</p>  | <p>11月</p>  | <p>12月</p>   | <p>1月</p>   |
| <p>0日</p>   | <p>0日</p>   | <p>15日</p>   | <p>15日</p>  |
| <p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>  | <p>計</p>  |  | <p>66日</p>  |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>体育館仕様イメージ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2023年上演時舞台写真<br/>幅約10M×約5.5M<br/>(会場によりサイズ変更可能)</p> </div> </div> |   |  |   |

企画に係るビジュアル  
イメージ  
(舞台の規模や演出が  
わかる写真)



「宿屋の仇討」

※採択決定後、図  
面等の提出を願  
いします。



「一人酒盛」



「猫の皿」

|                        |                             |      |          |        |
|------------------------|-----------------------------|------|----------|--------|
| 著作権、上演権利等<br>の<br>許諾状況 | 各種上演権、使用<br>権等の許諾手続き<br>の要否 | 該当なし | 該当コンテンツ名 |        |
|                        | 該当事項がある<br>場合               | 権利者名 |          | 許諾確認状況 |

※A4判6枚以内に収まるように作成してください。

|    |    |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

【公演団体名 有限会社劇団1980】

|                     |  |        |  |
|---------------------|--|--------|--|
| ワークショップのねらい         | 落語芝居を通して、江戸時代や明治の人々の生活を身近に感じ、滑稽なしぐさやセリフに笑いながら演劇の楽しさを体験する。<br>一流ミュージシャンの指導で、落語芝居の内容に沿って日常にある器具や楽器を使って効果音を創り出し、その後公演で俳優の芝居に合わせて効果音を付けることで、演劇の創造性を直に体験する。   |        |  |
| 児童・生徒の参加可能人数        | ワークショップ  | 参加人数目安 | 効果音ワークショップ実演生徒5人程度を予定。<br>落語芝居観劇ワークショップ500人。 |
| ワークショップ実施形態及び内容     | 公演前に、効果音ワークショップを音楽家の後藤勝氏の指導で、なべややかん、コップなどの日用品をたたいて効果音を作る。公演中に役者の演技に合わせて後藤勝と一緒に効果音を出して舞台を作り上げていく楽しさを体験する。<br>公演では、脚本家・演出家である大谷美智浩氏が各演目の前に解説を行う。<br>①落語の歴史<br>②代表的な演目<br>③作品の歴史背景<br>④主要な落語家の表現の違いなどの解説<br>事前に今回上演する演目の落語を視聴し、終演後のトークセッションで、その認識がどう変わったのか、変わらなかったのかを話し合い。この観劇経験を有意義なものとする。   |        |  |
| その他ワークショップに関する特記事項等 | 【演目概要・演目選択の理由】<br>「一人酒盛」<br>引っ越しの荷物で整理がつかない家に、友人が訪ねて来る。友人に酒でも飲んでゆっくりしてくれと言いながら、友人に荷物の整理をやらせ自分だけ酒を飲む。怒った友人に酒癖の悪い奴だと説教する。ひとへの心配りができず、友人関係を無くすことを児童や生徒に伝えたい。<br>「猫の皿」<br>友人の家で、高価な皿でエサを食べている猫を見て、法外な値段で猫を買う。猫はエサを食べなれた皿がいいからその皿も譲ってくれるように頼むが、友人はこの高価な皿でエサをやると猫が高く売れるからと断られる。<br>自分の都合のいいように話を進めようと考えてもうまくいかない事を伝えたい。<br>「宿屋の仇討」<br>ある宿屋に一人の侍が泊まる。疲れているので早く寝たいと言う。隣の部屋に3人連れの町人がやって来て大騒ぎを始める。侍は眠れず苦情をいうが一向におさまらない。そのうち3人組の一人が「自分は人を殺した」と作り話をして盛り上がる。我慢できなくなった侍は「自分は身内が殺されてかたき討ちの旅に出ているが、今やっと犯人が見つかった」と作り話をいう。3人は怖くなって静かになる。<br>自分が気が付かないところで他人に迷惑をかけていることがある。共に生きているのだから他者の存在への気遣いが必要である。また、話の中で江戸時代の人々の生活が身近なものとして感じられる。 |        |  |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

|  |  |
|--|--|
| 別添   | なし   |
| 本事業への応募理由  |  |
| 【公演団体名 有限会社劇団1980 】                                      |  |
| <p>本事業に対する<br/>取り組み姿勢、および<br/>効果的かつ円滑に実施<br/>するための工夫</p> | <p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b><br/> <b>【本事業を通して実現したいこと】</b><br/>     本劇団は創立の1980年より、一貫して庶民の目線での物語を作ってきた。その精神は「落語」という芸能とリンクするものがあり、芝居でその物語を表現すると平成16年よりその活動を行ってきた。その若い世代に伝えたいのは、時代時代の生活でそれぞれの市井の人々の「物語」があり、それは現代までも続いていること。そしてあえて1人でやる「落語」を立体的に芝居にするという事で、1つの「物語」にもその表現にはさまざま多様性があるという事である。それを丁寧に伝える事により若い世代に感じてもらい、有意義な経験の1つになってもらいたいと、この全国への学校への公演の可能性がある本企画に応募して、ぜひ実施したいと思った。まず、落語を芝居でという根本的な疑問をあえて受けて、その意義を演出家より解説し、その上で落語の歴史、作品の来歴を説明し、関心を持ってもらい。実際に見てどう感じたか思ったかを感想文、トークセッションなどで聞かせてもらいたい。</p> <p>ワークショップでプロの演奏家に効果音の手ほどきを受け、本番でプロの役者の演技に合わせて効果音をだし、舞台を一緒に創り出す楽しさを感じてもらいたい。</p> <p><b>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</b><br/>     古典落語になじみのない児童や生徒にそれぞれの作品の上演前に、演出の大谷美智弘が作品の時代背景、見どころ解説し、落語の登場する人々が身近なものに感じてもらう。ワークショップでは、打楽器等を使い面白い舞台になる工夫を児童や生徒たちと探り、本番で実演参加することにより表現の楽しさ豊かさを体感してもらう。</p> <p><b>②本事業を効果的かつ円滑に進めるための工夫</b><br/>     事前に校長先生や担当先生とのメールや連絡を取り合い、信頼関係を築き上げます。ワークショップの内容を事前にお伝えし、ワークショップの参加者を募集していただき、楽しくて意義ある事業にします。<br/>     事業終了後のアンケートのフォームを学校側と共同で作成し、落語や演劇をより身近なものにするようにします。</p> |